
ゴッドライトオンライン ~ただ在るがままの自分で~

神無 羅瀬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴツドライトオンライン　　ただ在るがままの自分で

【Nコード】

N3410L

【作者名】

神無　羅瀬

【あらすじ】

神の光オンラインは最悪のデスゲームだった。
百万人のプレイヤー達をどん底まで陥れる殺し合いの世界、そんな世界に放り込まれた少年とその少年の仲間達の物語、クリア条件は不明。ただ分かる事は死ぬまでこの世界からは解放されないと云う事のみ……。

ただ在るがままの自分で（前書き）

初めまして、神無カシナです。

オンラインゲームを元に書く小説は初めてなので至らない点が多い
と思いますが、これからよろしくお願いします。

ただ在るがままの自分で

『俺／僕』は何を『探して／求めて』この『場所／世界』を『進んだ／歩いた』のだろうか？

ゴッドライトオンライン……ただ在るがままの自分でプレイするたった一つのオンラインゲーム。

そう、宣伝されたゲームは他のオンラインゲームとは正に別物のオンラインゲームだった、作りは詳しくは知らないが人の脳波を感じてそれをバーチャルな世界に送り込み、まるで自分の体を動かす様にして生活する事が出来ると言う意味の分からなくなるハイテク技術が搭載されている。

そのオンラインゲームはヘッドライザーと呼ばれる脳波を感知する道具を買う必要があったが、ゲームが大好きだった俺はすぐにそれを買った。

けど、そのゲームは………狂っていた。それに気づく事になったのはこれにログインした瞬間だった。

『ピー………ピー………ログインを確認、脳波感知、合計百万人の登録とログインを完了致しました、ゲームの始まりです、貴方はこの世界で在るがままに存在して生き続ける権利を取得しました。これから、死ぬまで神の光トランスライトを楽しんでください』

ただ在るがままの自分で（後書き）

オンラインゲームの中に閉じ込められた百万人のプレイヤー達、外部からの連絡は取れず、内部からも外部に干渉する事も出来ない、死のゲームが、百万人目選ばされた少年と共に始まった。

キャラクター作成（前書き）

二話目……けど、本編は次からです。

キャラクター作成

『ようこそ！ 神の光に初めに皆様に連絡を申し上げます。この世界は自由を元に作られたオンラインゲームであり、百万人がログインした時点で開始となります、百万人の方がログインするまで他の方々には意識を停止されて頂きましたがご了承ください』

その言葉はまるで他人事のように俺の頭に入り込んで来る。一体ここはどこだろう？ 俺は確かオンラインゲームにログインしたはず、この真つ白い世界がそうなのか？

『また、通常のスタートとは違い、ランダムで場所を選ばせて頂き始めさせて頂きます、スタート直後にモンスターに襲われぬ様、開始から一時間の間、モンスターは出現しません。そして、この世界は現実の世界と繋がっており、このゲームでの死亡はリアルでの死亡となりますのでお気をつけてください』

このゲームでの死亡はリアルでの死亡となる？

『それでは、皆様、キャラクターを作り、この世界で二度目の人生を過ごしてください』

その言葉が終わった瞬間、体に光に包まれる感覚が起こり、目の前に黒髪の少年が現れ、俺の瞳を見る。

「誰だお前？」

俺が言葉を発した瞬間、その少年も同じ事を発した事に俺は驚き、咄嗟に口元を覆った。そして、また同じ様に少年も口元を覆う。もしかして、これが俺なのか？ 身長は百六十と言った所で少し小柄、黒い髪は少しパサついていて、その瞳は吸い込まれそうに黒い。

『職業を選択してください。ファイター/マジシャン/アーチャー/シールド/ビショップ』

これは、職業選択画面？ と、ともかく、まずは全部の特徴を見てみるか。

そう言いながら俺は瞳をファイターに向ける。するとまた先程の女性の声が頭に響き始めた。

『ファイター……通常の職業よりも体力が多く、肉弾戦を得意とする前衛方。使用可能武器は大剣、長剣、ハンマー』

頭の中に直接話しかけられている錯覚を覚えながらも俺は残りの四つの職業にも眼を向けて、全て理解した。

ファイターはさつきも言った通り、体力と攻撃と防御などに優れていて、マジシャンは体力が極端に低く、魔法攻撃がかなり特化されてるらしい、アーチャーもマジシャンと同じく体力は低いが移動速度と回避能力が高く、弓での攻撃が可能らしい。

「シールドとビショップか……」

他の三つは基本的に良くある物だから簡単に分かったがこちらは知る事の無い職だった。シールドは盾を使った職で攻撃力が低い代わりに体力と防御力が異常に高い、その代わり回避力はまったく無かった。ビショップは全ての能力が平均以下だが、回復能力や補助系の魔法が扱える職らしい。

「選ぶとしたら、ファイターかマジシャンだよな……」

俺が一番適していそうな二つのどちらかにしようと思う、だが、これは重要だ、ここで自分に合わないのを選んだら、簡単に死ぬかも知れな。

「待てっつ！俺は何を考える？！死ぬかも知れない？馬鹿か俺は、こんなただのゲームだろうが！」

そうだ、さっきのはただのゲーム設定なんだ、気にする必要はない、だったらやっぱり俺はファイターにするべきだ！

そして俺はファイターを選択してOKのボタンを押す、いや、押しイメージ瀬をした。頭の中に浮かんで来る設定画面を見ながらやるってのもまた変わった気分だな。

『ファイターの選択を確認、使用者の魂の性質から、職の変化を開始します……………完了しました』

は？ 職の変化ってなんだよ？

『おめでとう御座います、貴方はファイター職…………デュアルブレイドの権利を手に入りました』

デュアルブレイド？ あ、説明があるな、えと？

『デュアルブレイド…………二つの刀を操るファイター職、高速戦闘を使用する事が可能であり、刀を盾代わりに使用する事が出来る』

二つの剣…………二刀流か？！ 一気にテンションが上がるな！ 二刀流か、いいよなあ、あれって憧れるんだよな。

『キャラクターネームを入力してください』

使えるかなあ……二刀流か男なら一度はやって見たいって思うしな、けど、これって魂の性質とかって言ってたよな、俺にはその才能があるって事なのか？

『キャラクターネームを入力してください』

だったらいいなあ……才能か……そういえば、これってコントローラーとか無いんだよな、出来るか心配だな……。

『キャラクターネームを……入力してください』

ん、あ、キャラクターネームか……どうするか……なんでもいっか適当にっつと、ゴッドライトだったよなこれ、じゃあ

「俺は神は信じないんだ、神無ラセカンナで登録！」

『神無ラセカンナで登録完了、それではお楽しみください、死ぬ最後まで』

縁起悪いな……そう思った瞬間、俺の意識は薄れていった。

キャラクター作成（後書き）

神無「カンナ」は元々、神無月の月を取って作られていて深い意味が無いです、

ラセは昔からの愛用（笑）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3410/>

ゴッドライトオンライン ~ただ在るがままの自分で~

2010年10月14日15時48分発行